



佐賀大学

## 会報名称募集中

理工学部同窓会設立準備号

1999.8.1

No.3

# 理工学部同窓会創立記念式典・ 祝賀会のお知らせ

日 時 平成11年 8月28日(土)

場 所 佐賀大学理工学部 6号館 D C 棟  
(理工学部西域 元運動場)

日 程 14:00~15:10 理工学部同窓会総会  
(6号館 D C 棟 1階) (同窓生のみ対象)  
15:10~15:30 休憩  
15:30~18:00 創立記念式典及び祝賀会  
(6号館 D C 棟 2階) (関係者全員対象)

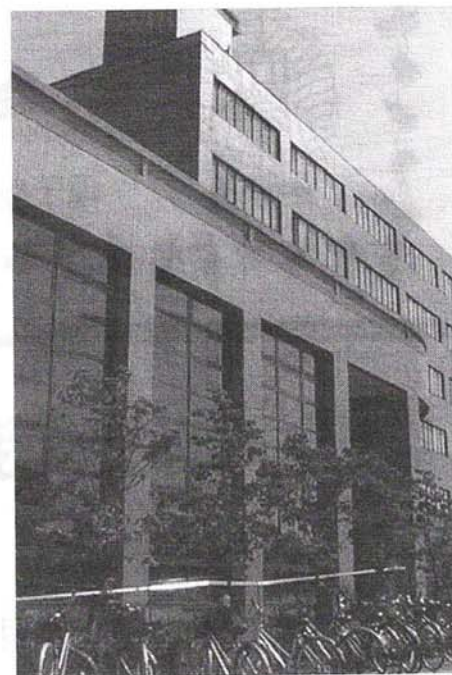
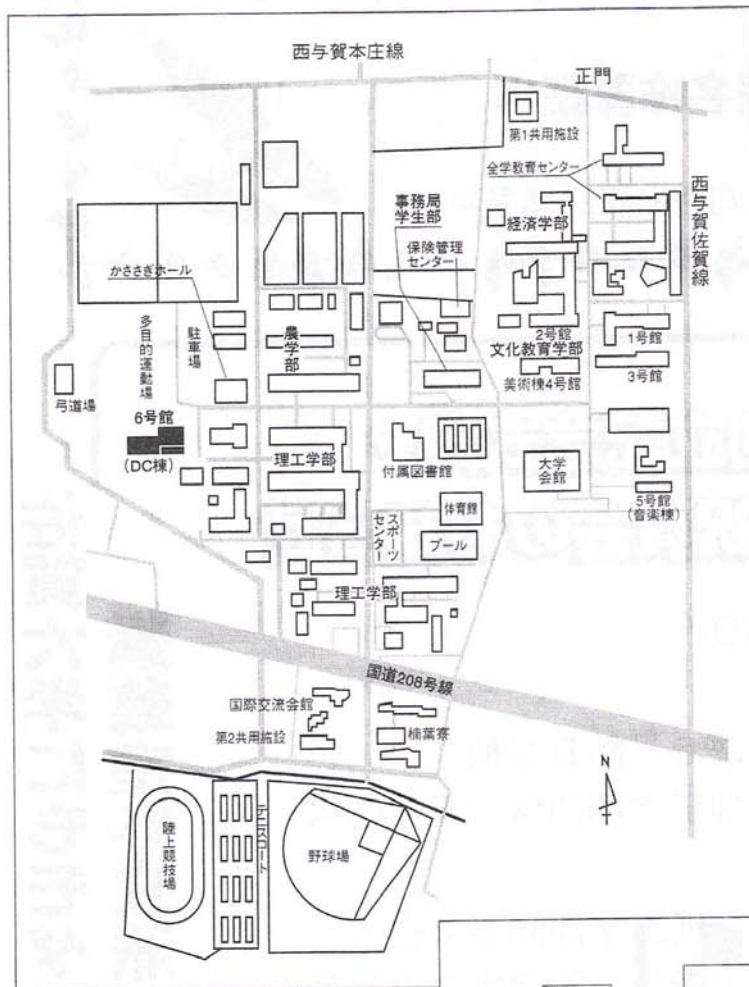
会 費 全員招待 (ただし人数に制限がありますので、事前の申し込みが必要です)

申込期日 平成11年 8月1日~ 8月20日まで

申込先・問合先 佐賀大学同窓会事務局  
(840-8502 佐賀市本庄町1)  
TEL 0952-23-1253  
FAX 0952-25-5700  
同封のFAX用紙でお申し込み下さい

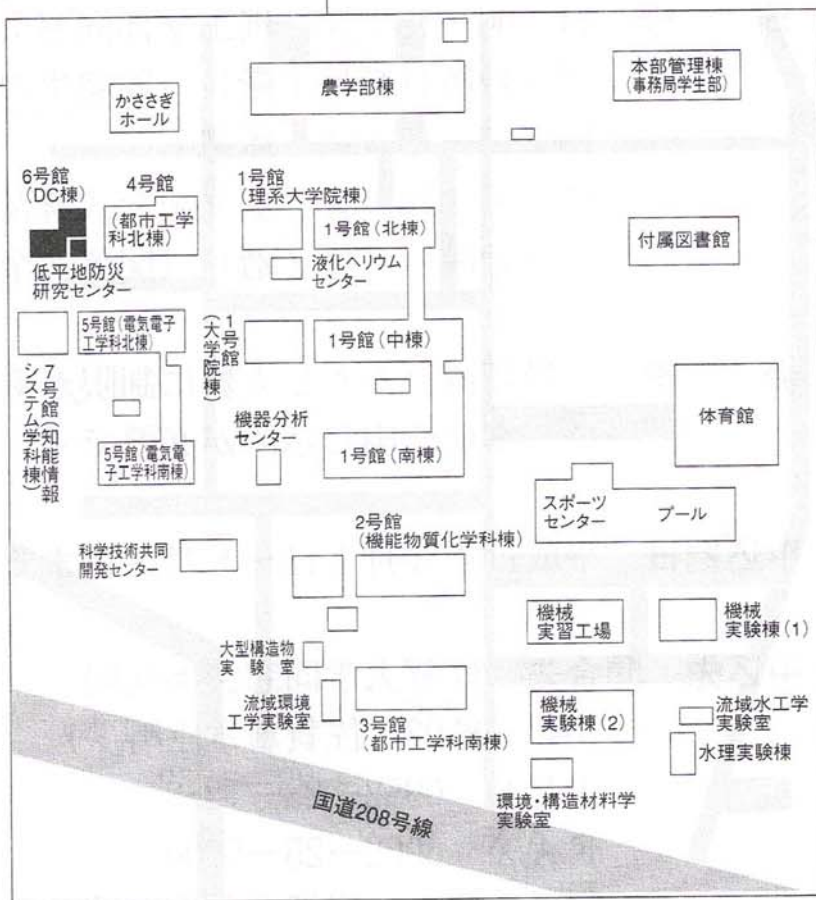
佐賀大学にもモダンなビルがあるトバイ  
講義室も立派かトヨ あんたも是非来ンネ

## ●佐賀大学配置図●



6号館(DC棟)の外観

- 1号館 (北棟)
  - 1~2階 機能物質化学科 (物質化学コース)
  - 3階 物理科学科
- 1号館 (中棟)
  - 1階 事務局
  - 2階 機能物質化学科 (物質化学コース)
  - 3階 物理科学科
  - 4階 数理科学科及び機械システム工学科
- 1号館 (南棟)
  - 1~4階 機械システム工学科
- 6号館 (DC棟)
  - 1階 物理科学科及び機能物質化学科 (機能材料化学コース)
  - 2~3階 電気電子工学科
  - 4~5階 数理科学科
  - 6階 知能情報システム学科



## ●理工学部配置図●

# 理工学部同窓会の活躍を期待する

## —創立記念式典及び祝賀会のご案内—



理工学部同窓会設立準備委員会

副委員長 田中 正和 (化学・48)

今、理工学部同窓会がまさに生まれようとしている。理工学部創設以来30数年の年月が流れ、理工学部の卒業生と在在生を合わせると10,000人を超えるに至った。今日まで、理工学部卒業生は楠葉同窓会に属してきたが、理工学部同窓生がその6割を占め、これ以上楠葉同窓会に迷惑はかけられないという思いと理工学部同窓会を作ろうとする志が生まれたのは自然の成り行きであろう。

一般社会では、縦に深い専門性が求められ、また同時に各専門性を有機的に結合した総合性が求められている。現代の発明・発見は、多数の人の英知が結合して初めて成り立つといわれる。必然的に、人が集まるところでは人の感情を制御することが求められる。ハード部門とソフト部門との均衡のとれた有機的、総合的、効率的融合が必要であろう。その意味で、今回の動きは、必然的流れのように思う。

これまで理工学部同窓会の必要性を問われながらも、楠葉同窓会を離れなかった理工学部卒業生が、理工学部同窓会を設立すること

を決定すると、会費徴収や同窓会事業などを佐賀大学同窓会に実質的に集約しようという動きさえもでてきた。今や、佐賀大学同窓会はさなぎから羽化を始め、飛び立とうとしているといっても過言ではあるまい。その中で多数の同窓生を抱える理工学部同窓会の担う役割と責任は大きく、佐賀大学同窓会の下部組織(図参照)としてどれだけ活躍し貢献できるかは、佐賀大学同窓会ひいては佐賀大学の行く末に多大の影響を及ぼすだろう。

平成11年7月31日(土)、楠葉同窓会総会で正式に理工学部同窓会創立を決定し、平成11年8月28日(土)に理工学部同窓会創立記念式典を開催する予定である。理工学部同窓の諸氏には、時間の許す限り参加して、ご意見を積極的に述べて頂きたい。最後に、理工学部同窓生の益々の活躍を期待し、理工学部同窓会および佐賀大学同窓会を通して、理工学部および佐賀大学の発展に貢献できることを期待する。

(参 考 図)

### 佐賀大学同窓会

教育学部同窓会(文化教育学部, 教育学部, 師範学校)

楠葉同窓会(文理学部, 経済学部)

**理工学部同窓会** …… (各学科)

農学部同窓会

[菊葉同窓会(旧制佐高)]

# 理工学部同窓会創立に至るまでの足取り

理工学部同窓会設立準備委員会

穂屋下 茂（機械・49）

理工学部同窓会を創立しようという動きが、今までにも全くなかった訳ではない。しかし、実際に多数の卒業生に呼びかけるまでには至らなかった。数年前、理工学部創立30周年を迎えるにあたって記念誌を刊行することになり、仲間同士が議論を重ねる機会が増えるとともに、自然と理工学部同窓会創立の願望も強くなってきた。理工学部30周年記念誌『歩みと想い』の刊行事業は大成功であった。卒業生の佐賀大学に対する思いが一つになったときでもあった。この場を借りて、ご協力頂いた同窓生や教職員の皆様に今一度お礼を申し上げたい。

平成9年の春には、佐賀大学50周年記念事業計画が実施され始めたが、それを機に楠葉同窓会常任理事会で、平成11年の7月の楠葉同窓会総会で理工学部卒業生が分離独立して、理工学部同窓会を創立することが認められた。

平成9年9月27日の理工学部創立記念式典終了後、有志により理工学部同窓会設立準備委員会発足式が行われた。それから一年半かけて、どのような同窓会にすべきか討議することとなった。準備委員会では、主に組織委員と広報委員に分かれ、「理工学部の発展とともに佐賀大学の発展に寄与する」という基本方針のもとに、理工学部同窓会のあり方、組織、会則および事業計画などについて討議がなされた。組織委員会は10回以上開催された。そこでは、理工学部同窓会会則（案）や事業計画（案）等を作成した。広報委員会は、準備委員会の状況や理工学部の現状を理工学

部卒業生に知らせるために、設立準備号を本号を含めて3回も発行した。

平成11年4月13日に開催された佐賀大学同窓会理事会春季定例役員会では、理工学部同窓会がスタートすると同時に佐賀大学同窓会会則に理工学部同窓会が属することが認められた。また、各同窓会でそれぞれ会費を徴収するのではなく、佐賀大学同窓会で一括して徴収し、共通経費を差し引いた残額を各同窓会の予算にすることとなった。同窓会事務員は佐賀大学同窓会で雇用し、佐賀大学同窓会および4つの同窓会の仕事を順次行うことになった。今後、楠葉同窓会で取り仕切ってきた佐賀大学規模の事業は佐賀大学同窓会の事業に移行すると思われる。もちろん、4つの学部同窓会は、競って実りあるオリジナルな同窓会活動を行うことが最も重要な課題となろう。

平成12年春頃には、50周年記念会館がオープンする予定である。会館は宿泊施設も兼ねているが、佐賀大学同窓会と4つの学部同窓会はそこで活動することになる。たかが同窓会といわず、佐賀大学を訪ねる機会があれば、気軽に同窓会事務局に立ち寄って欲しい。

大歓迎されます。そこは卒業したあなたが主役の場所です。もしかすると、あなたが見落としていた何か大事なものを見つけられるかも知れませんよ。きっと。

# Student request and expectation for Dosoukai alumni association of Science and engineering faculty in SAGA University



Graduate School of Science and Engineering(Doctoral Course)

97TD13 **Mahmood Nasser**

It may be worth mentioning that I have studied in Saga University for about four years in which I have completed the master degree in electrical engineering and for the time being I am doing my Ph.D. in the same field. As a student in my last year my main interest or let me say fear is that how to build up a career after graduation.

The main request here is an assisting with making the right decisions about choosing career or major so I am suggesting an electronic mailing list to be created to encourage communication and networking among alumni and students of Saga University. Subscribers should be encouraged to post messages about anything of interest to fellow alumni, students and friends. Student can tell where they are working or

studying and what is happening in their life. Announcing for jobs in a graduated student firm that might be of interest to fellow alumni, or ask for help in own job seeking. Exchange information about opportunities for further study in Japan or abroad. I believe creating such a list for announcements of the alumni activities, alumni gatherings, faculty and curriculum changes would give a greet help.

I am suggesting here a work to buildup a worldwide directory of alumni where students can submit their requests, requirements and expectations and from which they can get an valuation of their interests, personality traits, skills and matching their unique skills and interests to an appropriate career goal.

## 理工学部同窓会への要望と期待



博士前期課程

98 T M32 **篠原 千昌**

この度、楠葉同窓会から分離独立して理工学部同窓会が設立されることになりました。この理工学部同窓会は、佐賀大学同窓会の下部組織に位置しているものであり、教育学部同窓会、楠葉同窓会、農学部同窓会はもとより菊葉会、有朋会などの佐賀大学関係の他の同窓会と積極的な協力体制をとることにより佐賀大学同窓会の発展を全面的に支援するものであります。また、各学科の同窓会活動の支援など独立の理工学部だけでなく組織全体の発展に取り組むものとなっています。

私の要望は、卒業生の支援事業と在校生の支援事業として、卒業生並びに在校生の会員相互の親睦を深めると共に知見の交換の場を

数多く設けて欲しいと思います。広報活動として、理工学部同窓会の同窓生の情報や理工学部情報だけでなく佐賀大学の情報を広くわかりやすく提供していただきたいと思います。理工学部同窓会の楠葉同窓会からの分離独立により、その独自性を期待し、理工学部卒業生と在校生の積極的な参加と活発な意見のやりとりが行われるよりよい同窓会に成ることを望んでいます。

この理工学部同窓会の設立により数多くの同窓会会員の活発なご協力及びご援助により、理工学部はもとより佐賀大学のより一層の発展を期待すると共に、皆様方のご健勝をお祈りいたします。

## 学内共同利用施設の紹介

設立準備号では、学部紹介（No. 1）、大学院の紹介（No. 2）、のようにシリーズ的に理工学部を会員の皆様に紹介してきました。このシリーズは今回で最終を迎えますが、本号では理工学部と密接な関わりのある学内共同利用施設について紹介します。

### 【情報処理センター】

情報処理センターでは、研究・教育用計算機システム、情報ネットワーク、SCS等の維持管理を行っています。研究用に、高速のワークステーションや各種入出力機器を設置し、また教育用には、WindowsとUNIXの両OSが3演習室計180台のどこからも同じように利用できる環境を構築しています。演習室は、情報処理演習等にたいへんよく利用されており、空き時間にもレポート作成や電子メール・WWW等のインターネット利用で活況を呈しています。また情報処理センターでは、学内ネットワークおよび学外接続の整備、高速化を努力しており、ネットワークおよび各種サーバーの維持管理をしています。情報ネットワークが学内外を繋ぐ基本的インフラとなり



つつある現在、その重要性が増しています。さらにSCSという通信衛星経由の遠隔会議・講義システムを提供しています。社会が高度情報化する中で、拡大する一方の業務に合わせた組織の整備が最大の課題となっています。

（センター長 渡邊 義明 記）

### 【低平地防災研究センター】

佐賀平野は典型的な低平地であり、その地盤は世界的にも有数の軟弱地盤です。人類の約7割が居住する世界各地の低平地は、地盤沈下や地盤破壊、洪水や浸水災害、さらに水環境の悪化など、低平地特有の様々な問題を抱えています。当センターは、このように地元佐賀の問題であるとともに世界に共通する低平地の防災技術・環境改善技術に関する教育と研究に、総合的かつ集中的に取り組むために平成3年4月に設置されました。設置の趣旨を活かし効果的に目標を達成するために、5つのテーマを柱とする研究・技術開発、学外技術者との協力、国際情報の集約発信、地域社会への貢献、を行っています。学外技術者との協力を一層強化させることを目的として、平成5年には「低平地研究会」が組織さ

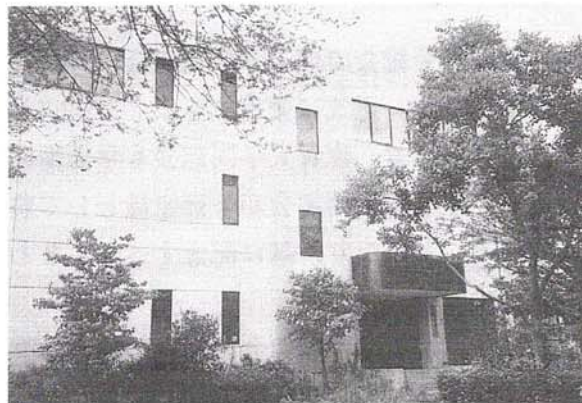


れ、本研究会と当センターを中心にさらに国際情報の集約発信の強化を図るために、平成10年には「国際低平地研究協会」を発足させました。

（センター長 三浦 哲彦 記）

## 【科学技術共同開発センター】

科学技術共同開発センターは、民間企業等との共同研究を推進し、地域社会における産業の活性化・科学技術の振興などに資することを目的に設置された学内共同教育研究施設であり、平成元年5月の発足以来、学内外各位のご支援・ご協力により順調な歩みを続け、本年でちょうど10周年を迎えました。センター建物の竣工は平成5年8月でしたが、研究室・実験室の利用は100%、共同研究も最近5ヶ年で16, 18, 20, 24, 26件と増え続けており、着々と成果が上げられています。また、民間企業等から技術相談が毎年150件以上も寄せられるほか、客員教授による特別講演会、県や（財）佐賀県地域産業支援センターとの共催によるシンポジウム・公開講演会などが活発に行われており、民間技術者等を対象とした高度技術研修も実施されています。このように、当センターは佐賀大学と地域社会と



の連携・交流の窓口として様々な活動をしていますので、同窓会の皆様にも積極的にご活用いただきたいと存じます。最後にセンター長の交代をお知らせします。平成7年4月から2期4年間を務めた筆者が退任し、本年4月から加藤富民雄農学部教授がセンター長に就任しました。変わらぬご支援・ご交誼をお願い申し上げます。

(元センター長 中島 晃 記)

## 【機器分析センター】

機器分析センターは平成10年4月に省令化され、全学組織として運営を開始しました。建物はまだなく、理工学部から部屋をお借りしています。業務は以下のとおりです。

- (1) 学内における既存の大型機器を集中管理し、共同利用を促進する。
- (2) 1つの部局では維持運営が困難な新規大型機器の設置を行う。
- (3) 専任スタッフによる共同利用の効率化と学外利用者への便宜を図る。
- (4) 新鋭機器の利用講習、学内外への広報活動を行う。
- (5) 既存の機器で移管できない装置はセンター登録機器として共同利用を図る。

平成11年6月現在、センター所属の機器はまだありません。主なセンター登録機器は、



超伝導高分解能フーリエ変換磁気共鳴装置、粉末X線回析装置、X線マイクロアナライザー、全自動アミノ酸分析計、フーリエ変換赤外分光光度計、ガスクロマトグラフィー質量分析装置等です。現在30程の機器またはシステムが、センター登録されています。

(センター長 芳尾 眞幸 記)

# 理工学部同窓会設立準備委員会解散

理工学部同窓会設立準備委員会

委員長 前山道明

楠葉同窓会総会で理工学部同窓会の分離独立が承認され、正式に発足することが決定しました。これで、佐賀大学同窓会も学部構成に沿った4学部の同窓会が下部組織として整備されることになり、誠に記念すべきことと思います。

思えば、理工学部同窓会の設立の動きは、理工学部創立30周年記念事業が計画されたこととあいまって、平成7年春頃より学内の理工学部出身の先生方を中心に機運が高まり活発になりました。そして、楠葉同窓会理事会での度重なる議論で概ね理解が得られる状況になり、平成9年9月の理工学部創立30周年記念式典後に同窓生の参集を得て、設立準備委員会を発足させました。

準備委員会は、庶務、組織、広報、会計から組織され、約20名の委員がそれぞれお忙しい中、理工学部同窓会をスムーズに立ち上げることのできるよう、また同窓生の皆様から親しまれる会となるようとの願いを込めて、同窓会会則や会報の作成などに熱心に取り組

みました。設立準備委員会としての任務は滞りなく全うできたものと信じています。

いよいよ名実ともに、理工学部同窓会が正式に発足できる状況になりましたので、理工学部同窓会設立準備委員会を解散することを宣言します。委員の方々にはたいへんご苦勞様でした。またこの活躍を暖かくご支援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

理工学部同窓会は今後、理工学部同窓会会長、理事等役員の選出や支部の結成など組織を整備することから始め、事業計画、予算編成など具体的な活動に入り、正式に活動を開始します。

同窓会が理工学部卒業生の交流の場として親しまれ、活発な活動が展開されますよう、また佐賀大学の発展に繋がる活動ができますよう、皆様の積極的なご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

来る8月28日に開催されます理工学部同窓会発足式・祝賀会には多数のご参加いただけますよう、心からお待ちしています。

## 〈設立準備委員会の主な動き〉

- ・平成11年4月22日：理工学部同窓会設立準備委員会
- ・平成11年7月6日：広報委員会
- ・平成11年7月27日：理工学部同窓生教職員集会
- ・平成11年8月1日：「設立準備号No.3」発行
- ・平成11年8月19日：理工学部同窓会設立準備委員会
- ・平成11年8月28日：理工学部同窓会設立準備委員会解散  
理工学部同窓会創立

発行 佐賀大学理工学部同窓会設立準備委員会  
佐賀市本庄町1番地 佐賀大学内  
TEL 0952-23-1253  
FAX 0952-25-5700

発行者 前山道明 (46・機)  
編集者 荒木宏之 (51・土)  
代表者